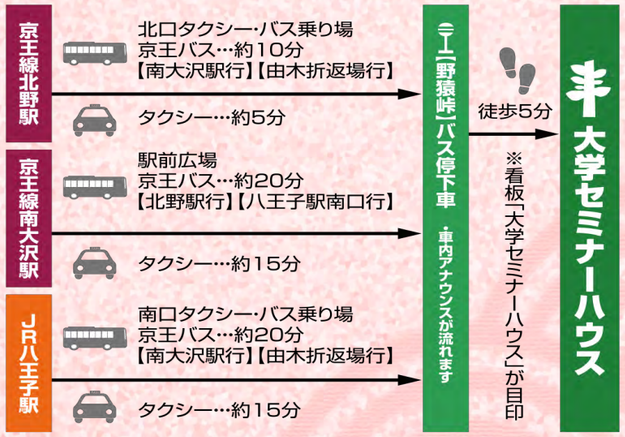
募　集　要　項

定員　　：60名（先着順・宿泊者優先）
参加費　：15,000円（税・宿泊・食事代・資料代を含む）、学生7,500円
申込締切：2019年11月1日(金)
その他　：当ハウスは一般の宿泊施設としてもご利用頂いております。セミナーの前日または終了後の宿泊を希望される方は前もってご連絡ください。

【ホームページから】大学セミナーハウスのホームページに掲載の申込フォームからお申込みください。なお１週間以内に自動返信メールがない場合には、お手数ですが、042-677-0141（直通）までお電話でご確認ください。
【お電話で】ホームページからお申込みできない方は、042-677-0141（直通）までお電話ください。

◆アクセス



お問い合わせ

公益財団法人 大学セミナーハウス　セミナー事業部

TEL：042-677-0141（直通）
FAX：042-676-1220
E-mail：seminar@seminarhouse.or.jp
URL：https://iush.jp/

古田武彦記念

古代史セミナー2019

日程

2019年11月9日（土）～10日（日）

場所

大学セミナーハウス

東京都八王子市下柚木1987-1

主催

公益財団法人大学セミナーハウス

共催

多元的古代研究会
東京古田会
古田史学の会
古田史学の会・東海

大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE

古田武彦記念古代史セミナー2019

2004年から2014年まで、毎年11月上旬に、八王子の大学セミナーハウスに古田武彦先生をお招きして、1泊2日の「古代史セミナー　～古田武彦先生を囲んで～　日本古代史新考　自由自在」を開催致しました。その内容は『TAGEN』、『東京古田会ニュース』、『古田史学会報』等に報告されています。更に、2004年から2012年までの内容は、平松健氏によってテーマ別に整理し直して編集され『古田武彦が語る多元史観』（ミネルヴァ書房）として刊行されています。その「はしがき」において古田先生は、「我が国の歴史教育を真実に戻すことが、この一書の役割である」と絶賛していらっしゃいます。また、セミナーの様子は西坂久和氏により完全収録され、西坂ビデオライブラリーに収められており、古田先生のあの情熱溢れるセミナーの様子はいつでも再現することが出来ます。

あのセミナーの内容は、研究者達から「八王子セミナー」として頻繁に引用され続けています。このことは、あのセミナーの内容が豊富であり、学術的に重要であったことの証です。主催した者としては、これに勝る喜びはありません。

古田武彦先生がお亡くなりになって3年半が経過しましたが、この間も、直接／間接に古田先生に学んだ古代史学の研究者達による研究が活発に進展し続けていることは悦ばしい限りです。

古田先生の研究方法による古代史学の学会が複数存在し、それぞれが活発に活動を続けていますが、研究者達が学会を超えて一堂に会し、「～古田武彦先生を囲んで～」研究交流をすることに意義があると考え、昨年、あの「八王子セミナー」と同じ場所で、同じ時期に、同じ日程で「古田武彦記念古代史セミナー2018」を開催しました。その趣旨は、「～古田武彦先生を囲んで～」古代史学の現状と発展の方向を確認する、その心は、古代史学の研究を進めるに当たっては、古田先生の研究方法と業績を踏まえることが重要であると考えたからです。

今年も同じ趣旨のセミナーを開催致します。このセミナーにおいて、「古代史学における古田先生の研究方法と業績を再確認」しながら、活発な研究交流が行われることを期待しています。更に、このセミナーは、研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。このセミナーが、若い人々が真実の古代を覗く窓になれば幸いです。

このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東京古田会、古田史学の会及び古田史学の会・東海が共同で開催致します。

実行委員長　荻上紘一

【実行委員】
大墨　伸明
荻野谷正博
橘髙　　修
西坂　久和
冨川ケイ子
和田　昌美

スケジュール

11月9日（土）

11：30～　受付・昼食
13：00～　閉会
13：30～　特別講演（藤尾慎一郎先生）
15：30～　記念撮影・チェックイン
16：00～　研究発表 Ⅰ
17：30～　夕食・休憩
18：30～　情報交換会

11月10日（日）

9：00～　研究発表 Ⅱ
12：00～　昼食・休憩
13：00～　研究発表 Ⅲ
16：10～　閉会
16：30　　解散

特別講演

二つの弥生時代――「イネと石」の時代から「イネと鉄」の時代へ――

藤尾慎一郎先生

「イネと鉄」の時代として知られている弥生時代。農業と金属器を手に入れた日本列島の住人の高度成長時代の物語。水田稲作の開始からわずか千年で古代国家を完成させた、驚異の時代が始まったのが弥生時代であった。

しかし、水田稲作が紀元前10世紀に始まっていたことが明らかにされた一方で、金属器が出現した時期は変わらなかったため、今や弥生時代は、石器とイネの時代である前半の６百年と、鉄器とイネの時代である後半の６百年に大きく分かれることになった。

イネと石器の時代とは、一体、どのような時代だったのだろうか。

今回の講演では、縄文時代と、「イネと鉄」の時代の間に存在する「イネと石」の時代に焦点をあてる。「イネと石」の時代は、本当に「弥生時代」といえるのであろうか？

【プロフィール】

広島大学文学部史学科考古学専攻（1981年卒業）、九州大学大学院文学研究科考古学専攻博士後期課程（1986年単位取得退学）。文学博士（広島大学2002年）。

九州大学文学部助手をへて、国立歴史民俗博物館助手、准教授、教授。総合研究大学院大学教授。

専門領域は先史考古学。日本考古学協会、考古学研究会、East Asia Archaeology Network に所属。

主な著書に『縄文論争』講談社メチエ（2002）、『<新>弥生時代 500年早かった水田稲作』吉川歴史文化ライブラリー（2011）、『弥生文化像の新構築』吉川弘文館（2013）、『弥生時代の歴史』講談社現代新書（2015）　など。

研究発表

Ⅰ　中村　通敏　冨谷至著『漢倭奴国王から日本国天皇へ　国号「日本」と称号「天皇」の誕生』への疑問の数々
　　上城　　誠　『万葉集』　―手枕まきて―
Ⅱ　安彦　克己　安日彦の本拠地を探る
　　菊地　栄吾　「孝季・吉次年譜」とその謎
　　合田　洋一　秋田孝季の歴史観をただす ―「六国史」等記載の「渡嶋」について―
　　西坂　久和　和田家文書のスキタイ・ゲルマンについて
Ⅲ　大墨　伸明　「念仏不信人」と記された『一枚起請文』の新史料について
　　井上　　肇　『日本後紀』巻第五　延暦十六年三月戊子の甲斐・相模二国堺争を定めた件
　　大下　隆司　難波宮遺構の考古発掘報告書の批判
　　久保　玲子　八面大王論

情報交換会

古田　光河　父の思い出と今後の活動
広幡　　文　神武東征
肥沼　孝治　方位の考古学
鈴木　　浩　九州王朝を訪ねる旅Ⅰ～Ⅲを終えて　見えてきた九州王朝
吉村八洲男　「信濃の国」での考古遺品から見る「磐井の乱」の実在
角田　彰男　臼杵石仏の九州年号について